

単元観

近年の中学生の言語生活を見ると、スマートフォンやタブレットなどの電子機器の普及により、メールやSNSで気持ちや情報を文字言語で伝える機会が圧倒的に増えている。しかし、それは短い会話文や話し言葉を用いた文章である場合が多く、日常生活の中で自分の気持ちを相手にわかりやすく根拠を明確に文章で書き表す機会や場面は少ない。

本単元は、中学校学習指導要領「B書くこと」(1)「ウ 根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。」をねらいとしている。学習内容としては、伝えたい事柄について、自分の考えや気持ちを、根拠を明確にして書くことであり、また、根拠や理由づけを互いに読み合い、根拠の明確さや主張と根拠のつながり、理由づけの客観性などについて意見交換をしたり、自分の表現の参考にしたりすることである。

本単元を通して、相手にわかりやすく根拠を明確に示して自分の考えを書くことは、生徒にとってこれからの社会生活において、課題に対して他者と協働して解決を図ったり、他者との関係の中で互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり、適切に表現したりする力を高める上で、大変意義があると考える。

生徒観

本学級の生徒(男子7名 女子12名 計19名)は、6月時点での標準学力調査(教研式NRT)において、全国平均をやや下回っている。しかし、領域別に見ると「書くこと」は、全国平均を上回っている。また、「書くこと」に関するアンケートの結果、「文章を書くことが好き」が65%だった。しかし、「筋道の通ったわかりやすい文章を書く」ことに関しては、「書き方が分からない」、「どう書いたら筋道の通った文章になるのかわからない」などの抵抗を感じている生徒が全体の68%いた。以上のことから、筋道を立てて自分の考えを書くことに対して、どのように書けばよいのかわからない生徒が多くいる実態がうかがえる。また、本学級の生徒は、授業中に自分の考えが浮かんでいても自信が持てずに書けないことが多々ある。このことから本単元では、まず、鑑賞文の書き方を理解するためにモデルの鑑賞文を示したり、根拠と理由づけの違いや主張と根拠のつながりについての確認テストを実施したりすることを手だてとして、魅力の伝わる鑑賞文の書き方を身に付けさせることで、わかりやすく筋道の通った文章を書くことに対する抵抗感を払拭できるようにしたい。

本時の評価

○本時の評価規準

主張につながる根拠を絵の特徴を基にして明確にし、根拠に基づいた理由づけを考えて書いている。

○本時の主眼

根拠と理由づけについて吟味する活動を通して、主張につながる根拠と理由づけを書くことができる。

○本時のまとめ(授業の最後に振り返ること)

根拠は絵の色彩や構図など、事実を基にして書く。理由づけは根拠と主張をつなぐ自分の考えで、主張につながるかどうかを意識しながら書くことで魅力が伝わりやすくなる。

○本時の生徒に提示する評価のものさし

A	B	C
主張につながる根拠と理由づけを書いた上で、班員に絵画の魅力が伝わるものになっている。	伝えたい魅力(主張)につながる絵画の特徴(根拠)とその解釈(理由づけ)を書くことができる。	主張につながる根拠もしくは理由づけのどちらかを書くことができる。

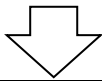
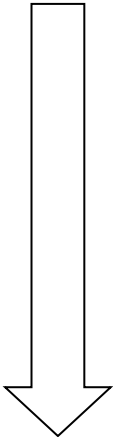
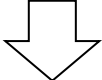
指導観

本教材の指導にあたっては、相手に伝わる文章の書き方について考えさせ、根拠に基づく理由づけを書いて、筋道の通った鑑賞文が書けるようにさせたい。そこで、以下の手だてを講じる。

- (1) 鑑賞文の書き方を理解させるために最初にモデルの鑑賞文を示し、それを基にして自分の鑑賞文を書いたり、書きぶりを意識して書いたりすることができるようにする。
- (2) 思考モデルを段階的に用いて書く活動をさせ、そのつながりを吟味する学習活動を取り入れる。ここでは、何について学習しているのかを意識することができるように、学習の流れを示したワークシートを用いて学習させる。
- (3) 主張と根拠の適切なつながりや根拠と理由づけの明確な区別を理解した上で文章を書くことができるように、ワークシートに沿った練習問題を第2時・第3時で行う。
- (4) 根拠と理由づけを互いに読み合わせ、相互評価させて、アドバイスを受けて吟味させる活動を仕組む。

そして、最終的に、選んだ絵についての鑑賞文を600字程度で書かせ、感想を交流させる。また、まとめとして、「根拠と理由づけが主張につながっているか。」「読み手に魅力を伝えられるような根拠と理由づけになっているか。」という観点に沿って学習を振り返らせることで、授業を通して何ができるようになったかをメタ認知させたい。

本時の主眼 根拠と理由づけについて吟味する活動を通して、主張につながる根拠と理由づけを書くことができる。

	豊津スタンダード	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準・方法
導入 10分	思考を揺さぶる 授業展開 ① 見通しを持つ (評価のものさしの提示) 	1、本時の課題とめあてを確認する。 ・本時の学習につながる練習問題に取り組む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> めあて 主張とのつながりを考えながら根拠と理由づけを書こう。 </div> ・評価ものさしのAとBを確認する。 A：主張につながる根拠と理由付けを書いた上で、 班員に絵画の魅力が伝わるものになっている。 B：主張につながる根拠と理由付けを書くことができる。	○ 本時の学習の見通しをもたせるために、根拠と理由付けの違いを考えるための練習問題に取り組ませる。 ○ 本時の学習のゴール像を明確にもたせるために、評価のものさしを提示し、確認させる。	
展開 35分	②自分の考えを持つ  ③自分の考えを広げる、深める 	2、絵に対する主張（魅力）につながる、根拠を選択する。 美術で学習した絵の特徴（色彩、構図、対象など）から、自分の主張につながる根拠とするものを2つ選び、ワークシートに箇条書きで書く。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・壁の色に暖色の黄色を使っている。(色彩) ・ひまわりの花が描かれている。(対象) ・絵の中央に花瓶が描かれている。(構図) </div> 3、根拠に基づいた理由付けを書く。 教師が提示したモデル文を参考にしながら、根拠に基づいた理由付けをワークシートに書く。 4、他者に魅力が伝わる文章に練り上げる。 交流活動を行い、自分の書いた文章を付加修正する。 ・班員同士で、①根拠と理由付けが主張につながっているか②読んだ人に魅力が伝わる文章になっているかについて相互評価する。 ・班員の意見を聞いて自分の書いた理由づけを修正する。	○ 根拠の書き方を理解させるためにモデルの鑑賞文を示して説明を加え、それを基にして自分の根拠を書いたり真似て書いたりすることを助言する。 ○ 主張につながる根拠を書くことができるように、T2と分担して机間指導を行い必要に応じて声かけを行う。事前に机間指導する際の視点を明確にし、共通理解しておく。 ○ 理由付けの書き方を理解させるためにモデルの鑑賞文を示して説明を加え、それを基にして自分の根拠を書いたり真似て書いたりすることを助言する。 ○ 主張につながる理由付けを書くことができるように、T2と分担して机間指導を行い必要に応じて助言を行う。事前に机間指導する際の視点を明確にし、共通理解しておく。 ○ 交流活動が活性化するように、意図的に3人1組の班編成を行う。(T2と協議する) ○ 相互評価する視点を明確にするために、評価シート使う。 ○ 魅力が伝わる理由付けとなるように、主張につながっているかどうかを意識して、付加修正するように助言する。	主張につながる理由づけを、根拠に基づいて書くことができたか。 (ワークシート分析)
まとめ 5分	④「何ができるようになったか」を評価のものさしを基に振り返る	4、学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> まとめ 根拠は絵の特徴など、事実を基にして書く。理由づけは根拠と主張をつなぐ自分の考えで、主張につながるかどうかを意識しながら書くことで、魅力が伝わりやすくなる。 </div> ・評価ものさしのA、B基準をもとに自己評価を行う。	○ 本時の学習を通して、何ができるようになったのか、わかるようになったのかをメタ認知させるために、振り返りシートに記入させる。	